

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A

a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。

b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。

ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されていません。

c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d 解答通りという条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B

a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。

b 加点要素でも減点要素でもない部分もありえます。その部分は加点も減点もしません。

C

次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。

c 文末の句点の脱落。

※字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。

たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。

また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

※ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

D

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 答案の文章が最後まで完結していないもの。

d 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたものの。

e 字数指定のある設問で、制限字数の半分に満たない場合は「字数不足」と記し、全体×として、0点とします。この原則と異なる採点をする場合は、採点基準で指示します。

□ (評論) 採点基準 (合計 50 点)

問一 各2点 (1) 〓 二 (2) 〓 子

問二 各4点 X 〓 亦 Y 〓 口

問三 5点 イ

問四 8点

(模範解答例)

A 2点

活字からではわからない

B 6点

文章を書くときの志賀直哉の息遣い(心の動き)を理解しなかったから

各加点要素の加点の条件

【A・Bに関して部分採点を行う(A・Bそれぞれ単独に採点を行って構わない)】

A 活字を読むことでは限界があるということ(2点)

B (書き写すと)書いている人(〓志賀直哉)の息遣い(〓心の動きが)がわかる(6点)

問五 14点

(模範解答例)

A 〇4点

活字になった文章を書き写すことで作家の心の動きを知り、書くことの実質をとらえようとする

B 〇2点

梶井の技術的真剣さに気づき、

C 〇6点

書き写すことに屈辱や誇りをもっていたことが

D 〇2点

恥ずかしく思われたから。

各加点要素の加点の条件

【A・B・Cに関して部分採点を行う(A・B・C・Dそれぞれ単独に採点を行って構わない)】

A (梶井は)活字になった文章を書き写し、作家の心の動きを知り、書くことの実質をとらえようとした(4点)

B 梶井の技術的真剣さに気づいた(2点)

C (自分は)書き写すことに屈辱や誇りをもっていた(6点)

D (自分の態度が)恥ずかしく思われた(2点) \* 「梶井に尊敬の念を抱いた」という方向でも可

問六 5点 二

問七 各3点 ハ・ヘ (順不同可)

二 (評論) 採点基準 (合計 50 点)

問一 各2点 (計8点)

- 1 太鼓判
- 2 駆 (「駈」も可)
- 3 情動
- 4 遠因

※解答通り

問二 5点

二

※解答通り

問五 5点

BならばA

※解答通り

問三 6点 (模範解答例)

A ○2点

飛行機事故や原子力発電を恐れる喫煙者が、

B ○2点

それよりも確率的には圧倒的に損失余命が長くリスクの大きい喫煙を

C ○2点

恐れないから。

(58字)

※A・B・Cに関して部分採点

A 「飛行機事故や原子力発電を恐れる喫煙者が」(2点)

※飛行機事故や原発事故を恐れる喫煙者がいることの説明(第二段落より)。

△「起きる可能性の低い飛行機事故や原発事故」について触れているものは、損失余命の観点を読み落としているので▲1点減点で△1点。

B 「それよりも確率的には圧倒的に損失余命が長くリスクの大きい喫煙を」(2点)

※損失余命の観点で、飛行機事故などより喫煙のリスクが大きいことの説明(第二段落より)。

△「次第に余命を奪う喫煙」としているものは、損失余命についての観点が抜けているので▲1点減点で△1点。

△「死亡するリスクの高い喫煙」としているものは、損失余命についての観点が抜けているので▲1点減点で△1点。

C 「恐れないから」(2点)

※AとBを比較して、Bを恐れないこと、Aを恐れること、の指摘。

○(Bを恐れないこと) 「無頓着だから」も可。

○(Aを恐れること) 「敏感だから」も可。

問四 6点 (模範解答例)

A ○2点

一回きりの人生の中で自分がリスクを負う対象となった場合、

B ○2点

リスクの確率が極めて低いことは

C ○2点

何の意味も持たないということ。

(58字)

※A・B・Cに関して部分採点

A 「一回きりの人生の中で自分がリスクを負う対象となった場合」(2点)

※「一回の人生」で「後遺症が残ったら」ということを一般化した言い換え。

△「一回しかない人生で」は、「後遺症が残ったこと」に触れていないので▲1点減点で△1点。

B 「リスクの確率が極めて低いこと」は(2点)

※「後遺症が残ること」の「確率が低いこと」を一般化した説明。

△「確率、普遍法則、統計」は、「(それらが)低いこと」について触れていないので▲1点減点で△1点。

C 「何の意味も持たない」と「(2点)

※「何の慰めにもならない」の言い換え。

○「無力だということ」、「本人にとって重大であることに変わりはない」も可。

A ○2点

刺激等価性は、共感力と結びついて、

B ○3点

特殊な大災害などの事例を概念化させ、

C ○3点

身近に起こり得るものだとする非論理性を生み、

D ○3点

同時に、具体的な視覚情報と音声言語・文字言語を対応させ、

E ○3点

そこから生じた概念同士を結びつける洗練された論理も生んだということ。

(119字)

※A・B・C・D・Eに関して部分採点

A 「刺激等価性は、共感力と結びついて」(2点)

※傍線部「共感能力と関連している」とあることから、その部分について説明。

B 「特殊な大災害などの事例を概念化させ」(3点)

※「大災害」の話題に即し、「身の回りで起きたことのように共感することの説明。

△「同程度に起こるように思っ」や「区別が難しく」は、「概念化させる」の意味に関連しているので  
1点減点で△2点。

△「感情移入しすぎて」や「共感して」は、「概念化させる」ことを的確に説明できていないので  
1点。

C 「身近に起こり得るものだとする非論理性を生み」(3点)

※「言語」との対比で、こちらは「非論理的」なものであることの説明。

△「思考が曖昧になる」や「よくありそうだと思う」は、「非論理的」であることを的確に説明できてい  
ないので▲2点減点で△1点。

D 「同時に、具体的な視覚情報と音声言語・文字言語を対応させ」(3点)

※「言語」の話題に即し、『赤い果実』と『りんご』の結びつき「があること」の説明。

△「視覚情報から音声言語への対応をつける」は、「文字言語」に触れていないので▲1点減点で△2点。  
△「あることと別のことを対応させ」は、一般化してしまっているので▲2点減点で△1点。

△「言語と結びつき」は、何が結びついているか不明なので▲2点減点で△1点。

E 「そこから生じた概念同士を結びつける洗練された論理も生んだということ」(3点)

※「大災害」との対比で、こちらは「論理的」なものであることの説明。

△「概念、論理、レトリックを生んだ」は、まとめ過ぎと考えて▲1点減点で△2点。

△「論理が生じた」は、「概念を結びつける」ためのものであることが不明瞭なので▲2点減点で△1点。

問七 6点 (模範解答例)

A ○2点

刺激等価性による概念化という同一の作用によって

B ○2点

非論理性と論理性という相反する性質が

C ○2点

人間にもたらされたということ。

(57字)

※A・B・Cに関して部分採点

A 「刺激等価性による概念化という同一の作用によって」(2点)

※「刺激等価性」の基本的な性質の説明。

△「刺激等価性は」は、それが「概念化」の働きをすることについて触れていないので▲1点減点で△1点。

B 「非論理性と論理性という相反する性質が」(2点)

※「刺激等価性」がもたらした二つのことを説明。

○「非論理性と論理性を」も可。

C 「人間にもたらされたということ」(2点)

※「人間の本质」に関わることについての指摘。

三

問一 (4点×2)

問一・A・模範解答例

そうは言ってもやはり 関白様を見たかったのであるようだ、(4

点)

a (1点)

b (1点)

c (1点)

d (1点)

【各部の採点】 4点満点。加ポイント4箇所。

a 「そうは言ってもやはり」…1点。「やはり」だけではダメ。

b 「関白様を」…1点。対象の明示。「道隆殿に」「殿のお姿を」も可。

c 「見たかった」…1点。「見たい」という「見る＋願望」の意。「逢いたい」はダメ。

d 「のであるようだ」…1点。断定＋推量の意。「たのだろう」でも可。

a (1点) b (1点) c (2点)

問一・D・模範解答例

伊周様が早く立ち去りなさってほしい。(4点)

【各部の採点】 4点満点。加ポイント3箇所。

a 「伊周様が」…1点。対象の補足。「大納言殿が」でも可。

b 「早く」…1点。「早く」「すぐに」の解釈。

c 「立ち去りなさってほしい」…2点。尊敬＋他への願望。完答。

問二

① (1) ハ

(2) □ ↓ ハ

② (1) イ

(2) ニ ↓ ハ

③ (1) □

(2) ニ ↓ □

④ (1) イ

(2) ニ ↓ □

(1) 各1点×4

(2) 完答各1点×4



問三 1 八 2 二 3 一 4 口  
(各2点×4)

問四 (6点)

問四・模範解答例  
中宮と大納言の 古歌を踏まえた風情のあるやりとりの様が、物語に描かれた世界に。(二八八字) (6点)

a (1点)	b (2点)	c (2点)	d (1点)
--------	--------	--------	--------

【各部の採点】 6点満点。加ポイント4箇所。

- a 「中宮と大納言の」…1点。具体的な二名の人物名。
- b 「古歌を踏まえたやりとりの様が」…2点。「古い歌を踏まえた会話の様」でも可。
- c 「風情のある」…2点。「風情のある」「教養あふれる」「趣のある」「優美な」なども可。
- d 「物語に描かれた世界に。」…1点。物語に描かれた様子の意。「物語に」だけではダメ。

問五 (8点)

問五・模範解答例  
清少納言の、遠くから見ていてさえ気おくれする大納言と  
直接向かい合って、恥ずかしくてたまらない心情。(四八字) (8点)

a (1点)	b (3点)
c (3点)	d (1点)

【各部の採点】 8点満点。加ポイント4箇所。

- a 「清少納言のく大納言に対する」…1点。主体と客体の補足。「筆者のく伊周に対する」でも可。
- b 「遠くから見ていてさえ気おくれする」…3点。「離れて見てるのでさえ気後れする」のニュアンス。「几帳を隔ていても気後れする」は2点。マイナス1点。
- c 「直接向かい合って恥ずかしくてたまらない」…3点。「面と向かっているのも恥ずかしい」の意。「面と向かっていると気が動転する」も可。「顔をつきあわせると現実とは思われないほどの」も可。
- d 「心情」…1点。文末処理。ただ、この箇所が正解だけでは零点。

## 問六 8点

### 問六・模範解答例

a (3点) 大納言の関心を他のものに向けてることで、

b (1点)

c (3点)

d (1点)

からかわれて困っている清少納言を助けてやろうと思ったから。

四八字) (8点)

【各部の採点】 8点満点。加ポイント4箇所。

a 「大納言の関心を他の物に向けてることで、」…3点。「大納言の注意を自分に向けて」でも可。

b 「からかわれて困っている」…1点。「からかわれて困っている」の意。「からかわれている」「困っている」だけではダメ。

c 「清少納言を助けてやろうと思った」…3点。「清少納言を救おうとする」のような表現。

d 「から」…1点。「ゝので・ゝから・ゝため」のような理由説明。この箇所だけ正解では得点しない。

## 問七 口・ホ (順不同) 各2点

四 (漢文) 採点基準 (合計 50 点)

問一 各 2 点 2 × 4 = 8 点

模範解答

a 〓よりて (よつて)      b 〓たちまち      c 〓つきて      d 〓ために

採点基準 送り仮名の無いもの 0 点。

問二 8 点

模範解答

雪景色の中、酒を楽しみ、さまよい歩き、

d 2 点      e 3 点

左思の招隱詩を口ずさんでいると、戴安道のことを思い出したから。

採点基準

- ・文が不完全のもの：0 点。
- ・字数が四〇字に満たなくとも加点をして点数を与える。
- ただし、「字数不足は〇点の可能性あり」など注意喚起をする。
- a ・「二面の雪の中」「降った雪の中」など可。
- b ・「酌をさせて」「酒を飲み」など可。
- c ・「彷徨」のままは不可。
- ・「歩きながら」も可。
- d ・「詩を吟じ」など 1 点。
- e ・「友人の戴安道」「戴安道に会いたいと思った」など可。
- ・「戴安道」がないもの 1 点減点。

問三 5 点

a 1 点      b 1 点      c 2 点      d 1 点

模範解答 1

どうして 必ずしも 戴に会う 必要があろうか、いや会う必要はな

い。

解答 2

「必ずしも 戴に会う 必要はない」

b 1 点      c 2 点      e 2 点

採点基準

- 「a d」または「e」で、反語表現が示せていれば 2 点。
- a ・「なぜ」は可。
  - ・「どうやって」は不可。

- c. 「戴安道に会う」も可。
- d. 「ことがあるか、いや会わない」も可。
- ・「ことはあるか、いや会う必要はない」も可。
- ・「ことはあるか、いやない」も可。
- ・「必要があるか、いやない」も可。
- ・上に「必ずしも」がなく、「会わない」と言い切るものは不可。
- e. 上に「必ずしも」があれば「ことはない」も可。

問四 5点

解答

|| ⑤ |

問五 5点

解答

|| 七言律詩

採点基準 ・「詩」を「詞」にするもの2点減点。

問六 5点

a 3点 b 2点

模範解答

|| 旅路の 憂い

採点基準

- a. 「旅人」「旅」も可。
- ・「旅客」は2点。
- ・「旅愁」はbと合わせて3点。
- b. 「憂え」「うれい」「うれえ」「心配」  
「辛々」「つらみ」「まじまじ」も可。
- ・「哀愁」は1点。

問七 5点

a 2点 b 1点 c 1点 d 1点 a

模範解答

|| 須らく 山陰に向かひて 小舟に 入る べし

採点基準

- ・漢字とすべきところを平仮名している場合  
…一箇所につき1点減点。
- a. 「須らくべし」の再読文字が読めて2点。

問八 9点

- ・「須く」「須からく」は許容。
- ・「べし」がない、または「べし」を「須し」とするもの不可。
- b・「向かい」は不可。
- ・「て」がないもの許容。
- c・「を」「で」「にて」など不可。

a 1点

b 1点

c 2点

模範解答

く、

|| 浣花溪での 穏やかな生活の中で、雑事に煩わされることな

d 1点

e 1点

王子猷のように 感興のおもむくままに

f 3点

自由に生きたいという心境。

採点基準

- ・四〇字以上を必要とする。満たないものは0点。
- a・「自然の美しい場所(土地)」で「静かな場所」なども可。
- b・「静かな生活」「のんびりとした生活」など可。
- c・「俗世を離れ」など可。
- e・「興に乗じて」も可。
- f・「自由奔放」「自由気まま」など可。